

すてきなお仕事 ①

「占いの玉手箱」

竹村亜希子さん

淑徳高校の卒業生で現在「占いの玉手箱」を経営している竹村亜希子さん(47)は、常設の占いコーナーを全国で初めて設置したり、講演、執筆までこなすすごい人だ。

趣味は乗馬。クラブにも通っていて、十年以上のキャリアを



持つ。この前はア

リソナに本格的な馬旅行に行ったそう

うで、その時の写

持った。真も見せてくれた。

占いを始めたきっかけは、「小

学二年生の時に姓名判断の本を読

んで、おもしろかったのでマスタ

ーとしたの」と話す。そして驚いた

ことに、中学2年生の時仙人のよ

うな人が訪ねてきて、「夢の中で

この家を見た」と言って五年間住

み込んだそうだ。仙

人から易学、人相、

手相、命宮学などの教

えを受け、その奇妙な

体験が彼女の生き方を

決めた。ただ仕事にし

ようと思ったのは二十

八歳の時で、既に結婚

して、三児の母となっ

ていた。「社会復帰す

るために)何か仕事が

したいと思って、すぐに使える技

術が占いでした。易で占ったら

「成功するからやってみなさい」

と出たので、ある程度の予定をた

ておさらいをかねて勉強しました。

半年後ぐらいに仕事として始めた

んです。一応基盤があったので、

普通より早く開始することができ

たんですよ。その頃は子どもがま

だ小さくて大変でしたね。」

まず最初に企業のイベントコー

ナーを開こうとした。しかし八月

のお盆時期だったため、営業して

いるお店は車屋くらい。仕方なく

てやっつけられるかどうか見ます。

特別な能力ではなくトータルに。

昔は占い師になるのに何十年もか

かったんですよ。

そして、「占いに頼りすぎずに、

たとえ悪い結果が出てもプラスに

つなげていってください。一つの

データとして頭の片隅に置いてお

くべらいがちょうどいいんです。」

高Iの担任だった前田邦子先

生と、高IIIの担任だった石川校

長先生にも当時の竹村さんの印

象などを聞いてみると、「明る

くてさわやかな感じの子だ

ったねえ。いろんなことをよく

知ってて博学だった。歌も上手

だったねえ。確かミュージカル

をやったんだよ。(前田先生)

「とにかく元気がよかったです。

」とくはきははしている子だっ

た。これからも仕事をがんばっ

てほしいです。(校長先生)と

いう答えが返ってきた。本人が

言うには高校時代は自由奔放に

遊んでいたということだが、実

際に会ってみても本当に明るい

感じのする人だった。

これからの目標は、「もっと

占いの精神を勉強したい」との

ことで、これからのさらなる活

躍が期待される。

(奥田・児玉)